

平成21年度 自己評価表

1 経営理念

地域とのつながりを大切にし、「ぬくもりのある心」を育てることを教育活動の基本におき、学ぶ喜びと存在感のある学校づくりをめざす。

◎教育目標「確かでしなやかな学力と豊かな心をもち、夢の実現に向かってたくましく生きる子供の育成」
校訓—こころひろく ゆめおおきく— ○めざす子供像・考える子・やさしい子・がんばる子

世羅町立せらにし小学校

2 経営目標

評価計画				7月(中間評価)				1月(最終評価)					
中期経営目標	短期経営目標	評価項目 (ゴシック体は小中連携項目)	管理	自己評価	結果と課題の説明	学校関係者評価	改善案	自己評価	結果と課題の説明	学校関係者評価	改善案		
確かでしなやかな学力	個々の状況を把握し、個に応じた指導法の工夫・改善と一般化、共有化を図り、自ら伸びる力を高める	○ 学力の状況・課題を把握し、基礎学力の向上を図る。	◆ 小中共通授業スタイル(目標提示・まとめ、キーワードの発声)を意識した授業を行う。	基	5	スタイルを意識した授業に取り組んだ。(89%)ねらいを示すことで児童も授業の流れをとらえやすくなり、キーワード発声により考える視点がはっきりした。	A	授業スタイルを意識することを続ける。授業の時間配分を考えて、児童のことは授業のまとめをしていく。	5	学習スタイルが統一されてきた。(90%)めあての提示は100%の実施で児童の考える視点がはっきりしてきた。児童の言葉でのまとめもできてきた。	A	学習スタイルの固定化を図るため継続していく。キーワードについての共通理解を図り、さらに学習内容の深まりを図る。	
				◆ 学びの7か条(声等)を意識した授業を行う。(意識できた児童80%)	基	4	授業の開始と終わりのあいさつと拳手のしかたがよくなってきたが、聞く姿勢は充分に育っていない。(85%)	A	全校の場や授業で、常に聞く姿勢について意識づけていく。	5	あいさつ・返事・拳手は98%の肯定的評価をしている。聞く姿勢についても意識付けたことで学習が深まってきた。	A	話を聞く姿勢だけでなく、内容を自分の考えと比較しながら聞かせる方法を講じていく。
				◆ 基礎学力をつけている。	基	5	漢字の平均点70点以上を80%以上にする。	A	漢字練習の際、止め、はね、払い、送りかな等に着目させきびしくチェックして定着を図っていく。	5	漢字学習を継続したことで漢字の定着を図ることができた。(95%)	A	日記や作文など、生活の中でも正しく使えるように指導する。
				計算の平均点80点以上を80%以上にする。	基	5	つばきタイムに計算ドリルを2〜4回繰り返し行うことで計算力を向上させた。(92%)	A	計算については、細かな指導を繰り返し一層の定着を図る。	5	つばきタイムで繰り返し行うことで計算力が上がった。(95%)	A	計算が正確に速くできることを目標にし支援の工夫をする。できない児童への支援や手だてを工夫する。
				◎ 自分の意見に理由をつけて発言する児童を80%以上にする。	基	1	理由をつけて発言する児童が63%であった。高学年になるにつれて理由付けができていく。	C	「なぜ」「どうして」と問い返すことで理由づけで長く発言する習慣をつけていき自信を持たせていく。	2	75%の児童ができたことと答えている。低学年でも理由づけしようとする意識が高まってきている。	A	結論先行、ナンバリング等を使うことを意識づける。また、書かせることで自信を持たせることを継続する。
				◎ 自主学習の習慣化を図る。	基	3	予習復習が定着し、興味関心を広げることで、学習の楽しさを味わわせることができた。(80%)	A	取り組みの優れた児童のノートを紹介したり、評価の工夫をしつらしていく。	4	優れたノートを紹介したことで89%の実施率となった。	A	他学年間でも、ノートを紹介し合うことで、学習内容の深まりを図る。
豊かな心	学校と家庭が一体となって豊かな人間性と感性を育む姿勢をつくり、体験とさまざまななかかわりを通して、気づき、感謝する心を育てる	○ 小・中連携による共通行動目標の作成と実践により、ルールやマナーを身につけさせる。	◆ 3つの重点項目(あいさつ・掃除・身だしなみ)について、成長段階に応じた基準により指導した。	生	3	11月1日全校指導した。	A	学級指導、個別指導については継続する。職員全員で声かけをする。	3	職員全員で声かけをし、あいさつ・掃除・身だしなみについて児童に意識づけることができた。	A	成長段階に応じた基準を小中で再検討し決める。	
				◆ 3つの重点項目を意識して生活する児童の割合が高まっている。(あいさつ90%・掃除90%・身だしなみ90%)	生	1	校内でのあいさつ96%、地域でのあいさつ79%、黙って掃除84%、身だしなみ(名札93%、シャツ84%、シューズ88%)であった。	B	あいさつのレベルカード、掃除の手順カード、制服の正しい着方カードを作り、具体的にやり方を示す。	3	校内でのあいさつ96%、黙って掃除98%、身だしなみ(名札95%、シャツ89%、シューズ89%)であった。地域でのあいさつは83%で定着しているとはいえない。(平均92%)	A	地域でのあいさつ週間をもうけて地域でのあいさつを意識づける。黙って掃除は継続する。身だしなみは「ボタンをきちんと留める」「持ち物の決まりを守る」について取り組む。
				◆ ふるさと意識を高め、感謝の気持ちや行動を表す児童を育てる。	道	3	地域の行事に参加した児童は77%であった。参加回数4回以上は22%、3回は19%、2回38%、1回17%、0回4%であった。一人当たり参加回数平均は2.3回であった。	C	地域にどのような行事があるのか児童に伝え、今後もいろいろな行事に参加するように促していく。	4	地域行事に参加した児童98%。一人当たりの参加回数は、3.9回であった。ふるさと行事に関心をもち、友達と誇い合っている様子も見られた。	A	ふるさと学習と関連させた道徳の時間の学習の取組みや地域行事への参加の呼びかけを継続して行う。
				◎ 道徳授業の質の向上を図る。	道	4	道徳の時間が楽しいと感じた児童は80%であった。児童や学級実態に即した資料選定の影響が考えられる。	A	教材研究や授業のシミュレーションなどを通して、授業力を高めていく。	4	道徳の時間が楽しいと感じた児童は89%。ワークシートへ書くことを負担に感じている児童もいる。	A	資料提示や発問の吟味、地域人材の活用など、多様な活動を取り入れるなどの改善やワークシートの工夫をする。
				◎ 人に温かく接する児童を育てる。	健	3	1年65回、2年50回、3年3回、4年3回、5年2回、6年2回と、どの学級も2回以上実施した。	A	教職員間での研修や交流を深めるとともに、回数や内容の統一を図る。	4	1年3回、2年3回、3年3回、4年3回、5年5回、6年4回とどの学級も3回以上実施した。	A	回数統一を踏まえて、引き続き内容の交流をさらに充実させていく。
				◎ 就寝時刻を守る児童の割合を増やす。	健	5	1回目100点が86%、2回目100点が92%と平均で89%となった。引き続き取り組んでいく。	A	規則正しい生活ができるように、継続して取り組んでいく。	5	1回目100点が86%、2回目92%、3回目87%、4回目86%と目標に達成することができた。	A	さらに規則正しい生活ができるように、早寝早起きの取組みを行う。
たくましく健康的な体	自らを鍛え、自らを管理する力を育てる	○ 目標をもって、継続努力する児童を育てる。	◎ 毎朝、柔軟体操・脚力強化運動を行い、50m走の記録を伸ばす。	健	1	4月と6月のタイムを比べて、記録が伸びた児童は56%と目標に達せず、実態把握に終わってしまった。記録が伸びるように取り組みを続けていく。	A	脚力強化運動、ラダートレーニングなど継続していくとともに、実態把握のみならず、個に応じて取り組みを強化する。	5	4月のタイムを比べて、記録が伸びた児童が82%と目標に達成することができた。	A	来年度の新たな力テスト、運動会などの体育的行事に向けて引き続き取組みを行う。	
				◎ 児童の姿に対する肯定的評価を向上させる。(来校者及び見学先からの肯定的評価を80%以上にする)	教	5	来校者及び見学先からの評価は、95%であった。いつでもどこでも同じように対応できるように継続して指導していく。	A	自ら主体的に対応できるように、あいさつ・返事・応答の仕方について指導を繰り返していく。	5	見学先からの評価は、100%であった。研究会来校者の評価は、学習態度や意欲、学習環境について90%以上であった。	A	いつでもどこでも誰に対しても、同じように対応できるように継続して指導していく。
信頼される学校	小中連携教育を充実させ、家庭・地域と共に子供を育てていく喜びを共有できる教育活動を創造する	○ 地域の人に喜んでもらえる実感味わわせるふるさと学習を創造する。	◎ 異学年の交流活動を行う中で、中学生に対するあこがれをもつ児童の割合を増やす。	教	5	すばらしい行動や態度の中学生を見つけ、あこがれを持つ児童は、100%であった。自らも低中学年からあこがれを持たれる存在になるよう意識づけていく。	A	高学年の児童が学校生活全般にわたって、リーダーシップが発揮できる場を設定するとともに、全職員前向きな評価を繰り返していく。	5	すばらしい行動や態度の中学生を見つけ、あこがれを持つ児童は、100%であった。今後は、自らも低中学年からあこがれを持たれる存在になるよう場の設定と意識づけをしていく。	A	高学年の児童が学校生活全般にわたって、低中学年からあこがれをもたれるような場を多く設定するとともに、全職員が前向きな評価を繰り返していく。	

◎ 達成目標 ◆ 学校努力目標 基:基礎学力部 特:特別支援教育部 道:道徳部 教:教務部 生:生徒指導部 健:健康体力部
5:目標を大幅に上回った 4:目標を上回った 3:目標に達した 2:目標に達しなかった 1:目標を大幅に下回った

3 自己評価基準

4 学校関係者評価基準

A:自己評価は適当である B:自己評価は適当でない C:評価は可能であるが、学校からの情報が不足しているの難しい